

日本#MeToo 運動における感情分析

CHEN Zibei

2017 年 10 月 5 日ニューヨーク・タイムズの記者、ジョディ・カンターとミーガン・トゥーイーは、ハーヴェイ・ワインスタインが女優に対してセクハラや暴行くりかえしていることを告発した。またその被害者の一人である女優アリッサ・ミラノは、#MeToo というハッシュタグを付け、自分の被害経験を Twitter で投稿したことが、アメリカにおける #MeToo 運動の発端になり、多くの国で連鎖的な影響を及ぼすことになった。日本でも、伊藤春香の発信に端を発してそれが徐々にヒートアップして、伊藤詩織の裁判は SNS 上でも大きな話題となった。

オンライン環境におけるハッシュタグ・フェミニズムの台頭に関する研究は増えているが、日本における#MeToo をテーマにした研究はまだ始まったばかりである。また、#MeToo が社会的な注目を集めることで、日本でも以前に比べて#MeToo 運動に関する研究が増えてきているが、#MeToo 運動における感情の分析はまだほとんど行われていない。

では、人々が Twitter を通じて発信している感情とは具体的にどのようなものなのか？#MeToo 運動の展開過程で感情はどのように変化しているのか？ この感情の変化の理由は何なのか？また、#MeToo 運動への参加を通じて、被害者が伝達したいメッセージは何か？このような問題関心に基づき、本研究では、日本の Twitter 上の#MeToo が付いたツイートを対象として分析することで、#MeToo 運動における感情研究の重要性を説明し、その特徴を明らかにする。

本研究では、2019 年 7 月から 2019 年 12 月までのツイートを収集し、ML-Ask によって分析した。ML-Ask は、まず、感情を表現しているテキストと、感情を表現していないテキストを分離し、感情を表すテキストの中から特定の感情タイプの表現を探し、判定する。その結果、10 種類に分類された感情(哀れ、恥、怒り、嫌、怖い、驚き、好き、昂ぶり、安、喜び)の分布と変遷が明らかになった。具体的なツイートと照らし合わせた感情の分布の分析を通じて明らかになったことは、以下の 4 点である。①「発声」は自身被害の経験を共有するだけでなく、むしろ外部から観察できる方法であり、従来の性被害に対する一般的な認知を変化できる。②日本では女性の主体性が希薄であるが、ツイートの中の感情表現に女性主体性の発芽が見て取れる。③フェミニズム運動だけでなく、女性の視点で社会を捉える、フェミニズム運動を支える周縁的な社会活動も重要である。④フェミニストとその反対者の「喧嘩」は、性的被害者の「二次的被害」を引き起こすかもしれないが、いずれにしても、

声が大きければ大きいほど、社会的な関心が高まる。